

狭窄部上流対策のまとめ

# 対策案を検討した結果、次のような案が実施可能で、効果があると考えられます。

●既存貯留施設（調節池）の活用

既往の施設を活用でき施工が容易であり、周辺自然環境および社会環境への影響がないことから4箇所を実施可能と判断しますが、今後は、さらに活用できる施設について調査・検討します。

●一庫ダムの放流操作の変更

新たな施設整備（事業費）が不要で、周辺自然環境への影響および社会的影響はありませんが、単独では実施できず、他の対策との組み合わせにより下流への流量増とならない場合、実施可能となります。したがって、さらに検討を行います。

●一庫ダムの堆砂容量の有効活用

浚渫・運搬時に騒音・粉塵等による周辺自然環境および社会環境の問題が懸念されますが、社会環境の影響については対応可能と考え、実施可能で有効な方法と判断します。

●一庫ダムの利水容量の振り替え

水需要の精査・確認を行います。余野川ダム事業地では用地買収がほぼ完了しており、社会的影響も軽微なことから貯留施設として有効活用できます。貯留施設である余野川ダムは一庫ダムの水道開発量の一部を肩代わりすることが考えられます。

●新たな遊水地の設置

施工面では実施可能ですが、社会的な影響が大きいため、引き続き検討します。

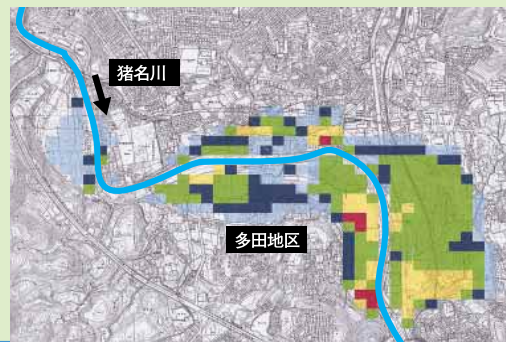
●氾濫原対策

浸水に強いまちづくり推進のため即効性のあるソフト対策を支援していきます。

## 狭窄部上流対策の効果（氾濫シミュレーション）

条件 ●降雨条件：昭和35年8月洪水の実績降雨 ●土地利用状況：現在

「貯留施設（調節池）」・「一庫ダム堆砂容量活用」・「一庫ダム利水容量振替」・「一庫ダム放流操作変更」・「遊水地」の対策を実施すると、多田地区の被害は軽減されます。



**現状** 被害額：630億円  
●浸水戸数：床上浸水家屋数 1,140戸  
床下浸水家屋数 290戸  
(昭和35年8月洪水の実績降雨)



**現状** + **狭窄部上流対策** 被害額：290億円  
●浸水戸数：床上浸水家屋数 760戸  
床下浸水家屋数 220戸  
(昭和35年8月洪水の実績降雨)

- 1.多田地区の浸水被害を早期に軽減するため、現在の調節池や一庫ダムの放流操作の変更・堆砂容量の活用・利水容量の振り替え、遊水地の新設が有効です。
- 2.一庫ダムの利水容量振り替えのための貯留施設として、余野川ダムが有効です。
- 3.多田地区の浸水被害を軽減するため、兵庫県の整備計画と調整を図ります。

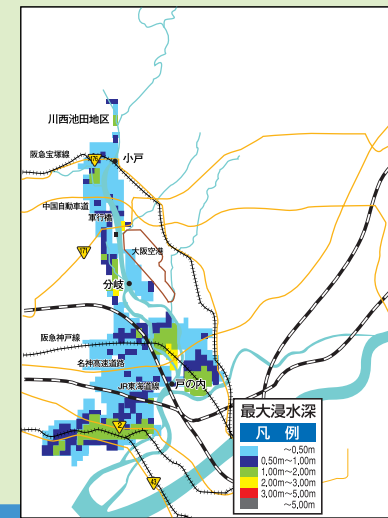
ただし、これらすべての対策を実施しても、既往最大規模の洪水に対する多田地区の浸水被害は解消できません。

下流部浸水被害の軽減効果

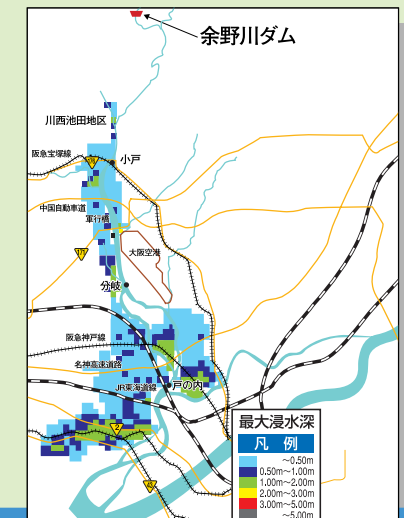
# 余野川ダムは下流部の浸水被害を軽減する効果があります。

## 余野川ダムの効果（氾濫シミュレーション）

条件 ●洪水調節容量：1,120万m<sup>3</sup> ●下流部堤防（破堤）条件：天端-1.5mで破堤 ●降雨条件：昭和28年9月洪水の実績降雨の1.5倍 ●土地利用状況：現在



**現状** 下流部の被害額：19,975億円  
(昭和28年9月洪水の実績降雨の1.5倍)



**現状** + **余野川ダム** 下流部の被害額：16,334億円  
(昭和28年9月洪水の実績降雨の1.5倍)

## まとめ

- 1.狭窄部上流多田地区の浸水被害を早期に軽減するため、既存調節池の活用、既設一庫ダムの放流操作変更、堆砂容量の活用、利水容量の振り替えおよび新たな遊水地の設置が有効です。
- 2.既設一庫ダムの利水容量の振り替えのための貯留施設として余野川ダムが有効です。
- 3.余野川ダムは下流部の浸水被害を軽減する効果があります。

## 今後の調査検討について

- 余野川ダムの貯水池規模の見直し並びに余野川ダムおよび一庫ダムの貯水池運用の変更を行う場合は環境等の諸調査を行います。
- 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行います。
- 利水について、早急な水需要の精査確認を行います。